

DERWENT-ACC-NO: 1997-123842

DERWENT-WEEK: 199716

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Automatic teller machine - has first host computer that processes amt. of money input to data card and deducts commission when inserted data card corresponds to machine, otherwise, inserted data card are transferred to second host computer

PRIORITY-DATA: 1995JP-0158926 (June 26, 1995)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES
MAIN-IPC			
JP 09007035 A	January 10, 1997	N/A	008
009/00			G07D

INT-CL (IPC): G07D009/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 09007035A

BASIC-ABSTRACT:

The machine uses an automatic transaction machine (1) which performs payment of the money input in an input operating device and the output of a detailed vote card (10). A discrimination device determines the ATM correspondence of the detailed vote card and a passbook (20) inserted in card insertion openings

(3,4) after reading the customer data in the detailed vote card and passbook.

The amt. of money input to the data card is processed by a first host computer and a predetermined commission is deducted from the balance when the discrimination device determines that the inserted data card is not the ATM correspondence, otherwise, the amt. of money to the inserted data card are transferred to a second host computer. The balance after deduction transaction of the amt. of money to the data card is transmitted to the ATM through the first host computer. The transmitted balance after transaction is printed by a printer to the inserted data card.

ADVANTAGE - Provides ATM which suppresses burden cost of utilisation commission to customer. Reduces setting cost of ATM. (Reissued from week 9712 for printing in week 9716 to add classifications)

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/10

【特許請求の範囲】

【請求項1】 顧客情報が記憶された情報体（10、20）を挿入可能な挿入部（3、4）と、前記情報体（10、20）から顧客情報を読み取る読取部（15）と、出金金額を人力可能な入力操作部（2h）と、明細票（25）に所定の項目を印字する印字部（7）とを備え、前記入力操作部（2h）で入力された金額の出金と前記明細票（25）の出力を行うことが可能な現金自動支払い装置（1）を利用した、現金自動支払いシステムであって、前記読取部（15）により読み取った読取顧客情報により、前記情報体（10、20）が前記現金自動支払い装置（1）に対して、純正か否かを判別する判別部（62）と、前記判別部（62）により、前記情報体（10、20）が非純正であると判別された場合に、前記入力された金額を、前記情報体（10、20）に対して非純正である第1ホストコンピュータ（41a）を介して、前記情報体（10、20）に対して純正である第2ホストコンピュータ（31a）に伝達する手段と、前記判別部（62）により、非純正と判断された場合には、取引前後高から前記入金金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータ（31a）を介して前記現金自動支払い装置（1）に伝達可能に構成され、前記明細票（25）に前記取引後残高の印字を前記印字部（7）により行う現金自動支払いシステム。

【請求項2】 顧客情報が記憶された情報体（10、20）を挿入可能な挿入部（3、4）と、前記情報体（10、20）から顧客情報を読み取る読取部（15）と、出金金額を人力可能な入力操作部（2h）と、明細票（25）に所定の項目を印字する印字部（7）とを備え、前記入力操作部（2h）で入力された金額の出金と明細票（25）の出力を行うことが可能な現金自動支払い装置（1）を利用した、現金自動支払いシステムであって、前記読取部（15）により読み取った読取顧客情報により、前記情報体（10、20）が前記現金自動支払い装置（1）に対して、純正か否かを判別する第1判別部（62）と、前記第1判別部（62）により、前記情報体（10、20）が非純正であると判別された場合には、前記入力された金額を、前記情報体（10、20）に対して非純正である第1ホストコンピュータ（41a）を介して、前記情報体（10、20）に対して純正である第2ホストコンピュータ（31a）に伝達する手段と、前記読取顧客情報が所定の条件を満たすか否かを判別する、前記第2ホストコンピュータ（31a）に備えられた第2判別部（63）と、前記第2判別部（63）により、所定の条件を満たすと判断された場合には、取引前後高から前記入金金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータ（41a）を介して前記現金自動支払い装置（1）に伝達する第1出金モードと、前記所定の条件を満たさないと判断された場合には、取引前後高から前記入金金額に特定の金額を加算し

た金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータ（41a）を介して前記現金自動支払い装置（1）に伝達する第2出金モードとが選択可能に構成され、前記明細票（25）に前記取引後残高の印字を前記印字部（7）により行う現金自動支払いシステム。

【請求項3】 前記第2ホストコンピュータ（31a）に接続された、複数の顧客情報からなる顧客リストが記憶されている記憶装置（70）と、前記複数の顧客情報のうち、特定の種類の情報に基づいて、前記所定の条件が決定されている請求項2に記載の現金自動支払いシステム。

【請求項4】 前記特定の種類の情報は、顧客が所定の期間内に入金を行った回数の情報である請求項3に記載の現金自動支払いシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、キャッシュカード等を利用して出金を行うことのできる現金自動支払い装置（以下、ATMという。）に関し、特に、他行ATMを利用する顧客に対して、他行ATM利用手数料の負担をさせない技術に関する。

【0002】

【従来の技術】 かかる技術分野において、例えば、A銀行の顧客がA銀行製のATMを利用して出金を行う場合には、利用手数料を引かれることはないが、A銀行の顧客がB銀行製のATMを利用して出金を行う場合には、出金金額に加えて他行利用手数料（現在は、100円に消費税を加えた103円である。）が残高から差し引かれてしまう。なお、説明の便宜のため、上記A銀行又はA銀行キャッシュカードに対するA銀行製のATMの組合せを「純正」と言い、A銀行又はA銀行キャッシュカードに対するB銀行製（A銀行以外の銀行）のATMの組合せを「非純正」という。又、大々の顧客を純正顧客、非純正顧客という。

【0003】 上記利用手数料を顧客に対して負担をさせない方法として、純正なATMを数多く設置することが考えられる。このようにすれば、顧客は利用手数料の支払いを免れるためわざわざ遠くに設置してある純正なATMまで足を運ぶ機会が減り、近くに設置してある純正なATMを利用する機会が多くなる可能性が高くなる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、ATMを多数設置すれば、それだけATMの設置コストもかかり、またそのメンテナンス等に要するコストもかなりのものとなる。そこで、本発明は純正なATMを数多く設置することなく、既に設置済みの非純正なATMを利用しても、顧客に対し利用手数料の負担をさせないシステムを安価に提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するた

め、本発明は、顧客情報が記憶された情報体を挿入可能な挿入部と、前記情報体から顧客情報を読み取る読取部と、出金金額を入力可能な入力操作部と、明細票に所定の項目を印字する印字部とを備え、前記入力操作部で入力された金額の出金と明細票の出力を行うことが可能な現金自動支払い装置を利用した、現金自動支払いシステムであって、その第1特徴構成は、前記読取部により読み取った読取顧客情報により、前記情報体が前記現金自動支払い装置に対して、純正か否かを判別する判別部と、前記判別部により、前記情報体が非純正であると判別された場合には、前記入力された金額を、前記情報体に対して非純正である第1ホストコンピュータを介して、前記情報体に対して純正である第2ホストコンピュータに伝達する手段と、前記判別部により、非純正と判断された場合には、取引前残高から前記入力金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータを介して前記現金自動支払い装置に伝達可能に構成され、前記明細票に前記取引後残高の印字を前記印字部により行う点である。

【0006】本発明の第2特徴構成は、前記読取部により読み取った読取顧客情報により、前記情報体が前記現金自動支払い装置に対して、純正か否かを判別する第1判別部と、前記第1判別部により、前記情報体が非純正であると判別された場合に、前記入力された金額を、前記情報体に対して非純正である第1ホストコンピュータを介して、前記情報体に対して純正である第2ホストコンピュータに伝達する手段と、前記読取顧客情報が所定の条件を満たすか否かを判別する。前記第2ホストコンピュータに備えられた第2判別部と、前記第2判別部により、所定の条件を満たすと判断された場合には、取引前残高から前記入力金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータを介して前記現金自動支払い装置に伝達する第1出金モードと、前記所定の条件を満たさないと判断された場合には、取引前残高から前記入力金額に特定の金額を加算した金額を差し引いた取引後残高を、前記第1ホストコンピュータを介して前記現金自動支払い装置に伝達する第2出金モードとが選択可能に構成され、前記明細票に前記取引後残高の印字を前記印字部により行う点である。

【0007】本発明の第3特徴構成は、上記第1又は第2特徴構成において、前記第2ホストコンピュータに接続された、複数の顧客情報からなる顧客リストが記憶されている記憶装置と、前記複数の顧客情報のうち、特定の種類の情報に基づいて、前記所定の条件が決定されている点である。

【0008】

【作用】本発明の第1及び第2特徴構成によれば、現金自動支払い装置（以下、ATMと言う。）に対して純正

な第2ホストコンピュータにより、利用手数料を取引前残高から差し引くかどうか否かを判別し、非純正である第1ホストコンピュータでは上記判断をしなくてよい。つまり、利用手数料を取るかどうかの判断を、他行のソフトウェアの変更をすることなく、当行のコンピュータのソフトウェアの変更のみで可能である。

【0009】本発明の第3特徴構成によれば、複数の顧客情報のうち、特定の種類の情報に基づいて、所定の条件が決定されるので、全ての非純正顧客に対して利用手数料を差し引かなくて済む。本発明の第4特徴構成によれば、出金回数に基づいて所定の条件が決められるので、非純正ATMの利用回数が所定回数以上になると、利用手数料の差し引きは行われない。

【0010】

【発明の効果】本発明の第1及び第2特徴構成によれば、純正な第2ホストコンピュータのソフトウェアの変更のみで、顧客に利用手数料を負担させないシステムを行うことができる。つまり、後述する図5に示すような、ほとんどの金融機関が加盟提携している金融機関ネットワークキャッシングサービスのシステムの構成を全く変更する必要もなく、しかも、純正なATMを設置しなくても、非純正なATMを有効に活用できるので、ATMの設置コストの削減を達成できる。

【0011】本発明の第3特徴構成によれば、全ての非純正顧客に対して利用手数料を差し引かなくて済む。よって、利用手数料の負担コストを一定内に押さえることができる。本発明の第4特徴構成によれば、利用回数によって、上記負担コストを制限できるので、負担コストの予想が容易なものとなる。

【0012】

【実施例】本発明の現金自動支払いシステム及び方法に係る実施例を、図に基づいて詳細に説明する。図1は、現金自動支払い装置として使用される、ATM1の外観を示す。カード挿入部3にはキャッシュカード（以下、単にカードという）10が挿入される。通帳挿入部4には預金通帳20が挿入される。取出し部5は現金を取り出すための取り出し口である。表示画面2には、顧客がATMを操作しやすいように種々のメニューが表示されるようになっている。カード10には、顧客情報が磁気記録されたストライプ部10aを有する。預金通帳20にも、同様に顧客情報が磁気記録されたストライプ部（ただし、図1には示されていない。）を有している。また、収容部6は複数の明細票25を収容し、この明細票に印字部7において所定の項目が印字された後、ATM外部に出力される。収容部6及び印字部7については周知であるので、その詳細な構成は省略する。

【0013】図2乃至図4は表示画面2の表示例を示すものである。図2はメニュー（モード）選択表示例である。このATMには7つの利用モードがあり、それぞれ預金モード、通帳記入モード、振替モード、出金モ

5

ド、残高照会モード、カードローンモード、振込モードである。表示画面2の表面には周知の薄型透明のタッチキー2a、2b、2c、2d、2e、2f、2gが備えられており、顧客は利用したいモードが表示された箇所を押圧すればよい。これらタッチキーが第1入力操作部に該当する。表示の大きさとタッチキーの大きさはほぼ一致するように設定される。

【0014】図3は、暗証番号を入力する際の表示画面2である。0から9までの数字が表示された部分に対応して、暗証番号を入力するための第2入力操作部であるタッチキー2hが設けられている。図4は、出金金額を入力する際の表示画面2である。図3と同様に金額を入力するための第2入力操作部であるタッチキー2hが設けられている。タッチキーは表示画面上にマトリクス状に配置された透明電極により構成されるものであり、第1入力操作部と第2入力操作部とは一部が兼用された構成となっている。第1、第2入力操作部の構成としては、表示画面2の枠外に独立して設けられていてもよい。

【0015】図7は、記憶装置70に記憶されている顧客リスト（顧客情報）の具体的な内容である。顧客情報として、氏名、口座番号、銀行コード、支店コード、取引残高、取引回数、カード種別情報、暗証番号等があげられる。図8は、ATMとホストコンピュータ（以下、単にホストという。）60の概略図を示すものである。読取部15はATMに挿入されたカード10や預金通帳20に記録されている顧客情報を読み取る。これらカード10や預金通帳20にはストライプ状に情報が磁気記録されており、これらカード10や預金通帳20は情報体に該当する。上記記録された情報は、周知の磁気センサー等によって、読み取られる。この記録された情報としては、銀行コード、支店コード、科目、口座番号、暗証番号（以下、顧客IDと言う。）、カード種類（キャッシュカード使用の場合のみ）などがある。カード種類情報として、純正カードか非純正カードかの情報や、CDカードかカードローンカードかクレジットカードかの情報や、本人カードか代理人カードかの情報や、特定の種類のカード（例えば、商品名：サカスカード）か通常のカードかの情報がある。

【0016】データ入力部16は、前述した暗証番号や金額を入力するタッチキー2a～2hが該当する。表示部17は、前述の表示画面2が該当する。印字部18は、明細や預金通帳に所定の項目を印字するものである。ATMからホスト70にはATMのID、選択メニュー番号、入力された出金金額、入力された暗証番号、情報体から読み取った暗証番号、口座番号、銀行コード、支店コード、カード種類情報等の情報が転送される。

【0017】次に、各銀行等の金融機関のホストと各ATM（端末機）との間の、情報ネットワークについて図

6

5を基に説明する。第二地方銀行グループには、各銀行がそれぞれ独自のホスト31a、31b、31c、31d、31e、31f、31g、31h、31i、31j、31k、31l、31m、31nを備えており、更にその中のある銀行のホスト31aについては、多数のATM30a、30b、30c、30d、30e、30f、30g、30h、30i、30j、30k、30l、30mと接続されている。又、第二地方銀行以外の都市銀行グループについても同様にホスト41、ATM40を備えてなる。その他金融機関のグループとしては、地方銀行グループ51、信託銀行グループ、信用組合グループ、労働金庫グループ等がある。

【0018】更に、各グループには、そのグループ内のホストを統括するコンピュータがあり、例えば第二地方銀行グループではSCSにおけるコンピュータ32である。都市銀行グループでは、BANK5におけるコンピュータ42、地方銀行グループでは、ACSにおけるコンピュータ52が該当する。更に又、これらのコンピュータ32、42、52を統括する、MICSにおけるセンターコンピュータ80がある。

【0019】次に本発明に係る実施例の説明を行う。図6で、非純正顧客がATMを利用して出金するケースの概略を説明する。A銀行カード10を所有する顧客が、B銀行ATM40aを利用して出金する場合、B銀行ATM40aはカード10から顧客情報を読み取り、カード10が銀行製のものか否かを（純正か否かを）判別する。カード10がA銀行製のものであると判別されると、その情報を含めた所定の情報が、B銀行ホスト41a（第1ホスト）を介してA銀行ホスト31a（第2ホスト）に伝達される。なお、カード10と併せて預金通帳20を使用することもある。ここで、B銀行ATM40aからB銀行ホスト41aに情報は、ATMのID、選択メニュー番号、入力された出金金額、入力された暗証番号、及び情報体から読み取った暗証番号、口座番号、銀行コード、支店コード、カード種類情報等（これらをまとめて、以下、第1上り電文という。）がある。

【0020】さらに、B銀行ホスト41aからA銀行ホスト31aへは、第1上り電文に利用手数料情報等が付加（これを、以下、第2上り電文という。）されて伝達される。A銀行ホスト31aにて顧客情報を検索し、所定の処理想標準手順を行った後、A銀行ホスト31aからB銀行ホスト41aを介してB銀行ATM40aに、ATMのID、選択メニューコード、入力された出金金額、入力された暗証番号、情報体から読み取った暗証番号、口座番号、銀行コード、支店コード、カード種類情報、利用手数料、残高情報等（これらをまとめて、以下、下り電文という。）が伝達される。なお、純正顧客の場合には、電文のやり取りは、当然にB銀行ATM40aとB銀行ホスト41aとの間でのみ行われる。

【0021】図6は、各コンピュータ間の情報伝達を簡略化して説明するものであるが、これを図5によりもう少し詳細に説明する。ここで、第二地方銀行31aの顧客

客が、都市銀行41aのATMを利用して出金を行う場合を説明する。第1上り電文はATM40aからホスト41aへ伝送される(経路L1)。ホスト41aにて、利用手数料情報が付加され、第2上り電文がBANKS 42、MICS80、SCS32、を介して第2地方銀行のホスト31aへ伝送される(経路L2・L3→L4→L5)。下り電文は、逆の経路をたどる(経路L5→L4→L3→L2→L1)。

【0022】次に、本発明に係る実施例の作用を、図9のフローチャートを基に説明する。ここで使用されるATMは、非純正なATMである。まず、初期状態ではATMの表示画面2は、図2のようなメニュー(モード)選択表示画面となっている(ステップ#01)。次に、顧客によるメニュー選択操作が行われる(ステップ#02)。出金を目的とする場合には、出金モードに対応したタッチキー2dを押圧操作する。メニュー選択がなされると、利用モードが出金モードか否かを判別する(ステップ#03)。出金モードと判別されると、「カードを入れよ」という指令が出され(ステップ#04)、表示画面2上に「カードをお入れ下さい」と表示される。ステップ#03で、出金モードではないと判別されると、入金モードか否かを判別し所定の入金モード手順が実行される。このように、利用モードに応じた所定のモード手順が実行されるように構成される。図9では、出金モードを選択した場合の手順の説明を行うものである。

【0023】次に、顧客によりカード10が挿入部3から挿入されると(ステップ#05)、「通帳を入れなければ暗証番号を押せ」という指令が出され(ステップ#06)、その旨が表示画面2上に表示される。なお、カード10の挿入により、そのカード10に磁気記録された顧客情報を読取部15にて読み取る。カード10と併せて預金通帳20も挿入された場合には(ステップ#07)、預金通帳20に磁気記録された顧客情報も読み取られる。出金モードを利用する場合には、必ずしも預金通帳20は必要でなく、カード10のみの使用で出金を行うことができる。

【0024】顧客情報を読み取った後、「暗証番号を押せ」という指令が出され(ステップ#08)、その旨が表示画面2上に表示される。図3に示される、タッチキー2hによる4桁の暗証番号がキーインされると(ステップ#09)、「金額を押せ」という指令が出され(ステップ#10)、その旨が表示画面2上に表示される。図4に示すように、タッチキー2hによる出金金額のキーインを行う(ステップ#11)。以上の入力操作が終了後、ATMにおいてカード10が純正か否かの判断を行う(ステップ#12)。カード10が純正であると判別された場合には、第1ホスト41aにて周知の出金処理標準手順が実行され(ステップ#13)、後述のステップ#19へ移行する。

【0025】カード10が純正でない判断された場合には、第1ホスト41aを介して第2ホスト31aに転送する各種データを転送フィールドに設定する。転送データには、前述したごとく、ATMのID、選択メニュー番号、入力された出金金額、入力された暗証番号、及び情報体から読み取った暗証番号、口座番号、銀行コード、支店コード、カード種類情報等の情報がある。各種データの設定完了後、データはATMから第1ホスト41aを介して、第2ホスト31aへ転送される。この第2ホスト31aは、カード10に対して純正である。以下の処理、手順は第2ホスト31aで実行される。転送されるデータは、前述した第1上り電文、第2上り電文である。

【0026】データが転送されると、出金モードである場合には、所定の出金処理標準手順による所定の処理がなされる(ステップ#14)。この所定の処理は、周知の手順である。この処理の終了後、顧客情報が所定の条件を満たしているか否かを、第2判別部63にて判別する(ステップ#15)。

【0027】ここで、所定の条件として、例えば、1か月の間に5回以上の出金があったかどうかで判別する。このような条件を設定することで、銀行が負担する利用手数料の額を制限することができる。1か月間の出金回数が5回以内であれば、その顧客の取引前残高から出金金額を差し引いた額を取引後残高とする(ステップ#16)。例えば、取引前残高が50000円として、出金金額が30000円とすると、取引後残高を50000-30000=20000円とするのである。この場合、利用手数料を差し引かない旨を告知するための、告知文高等の告知情報を設定してもよい(ステップ#18)。

【0028】尚、ステップ#15にて所定の条件を満たしていないと判別された場合には、次のような処理を行う。例えば、1か月間の出金金額が5回以上の、8回であれば、その顧客の取引前残高から出金金額と利用手数料(103円)を差し引いた額を取引後残高とする(ステップ#17)。前述の例だと、取引後残高を50000-30000-103=19897円とする。なお、図9には示していないが、利用モードが出金モードではなく、その他のモード、例えば、入金モードの場合には所定の入金処理手順を行った後、第1ホスト41aからATMへ後述する所定のデータが転送された後、ステップ#18へ移行する。その他の出金モード以外の場合も同様である。

【0029】以上の動作が終了した後、第2ホスト31aから第1ホスト41aを介して、ATMへとデータを転送する。転送されるデータの内容は、ATMのID、選択メニューコード、入力された出金金額、入力された暗証番号、情報体から読み取った暗証番号、口座番号、銀行コード、支店コード、カード種類情報、残高情報、

CD使用手数料、告知文言データ(下り電文)などである。データの転送が行われると、預金通帳20に出金金額、残高等の印字が行われる(ステップ#19)。

【0030】預金通帳20の印字が終了すると、図10に示すような明細票25の印字を行う。ここで、印字される情報は、取引前残高である「50000」の数字25a、出金金額である「30000」の数字25b、取引後残高である「20000」の数字25d、利用手数料である「手数料」の文字とその額である「0」の数字25cが印字される。「0」の数字から、顧客は利用手数料が差し引かれなかったことを認識できる。即ち、この「0」は告知情報である。

【0031】なお、この手数料の情報は必ずしも印字する必要はなく、取引前残高と取引後残高のみの印字としてもよい。即ち、ステップ#18は必ずしもなくてもよい。又、手数料として「103」と印字してもよい。この場合、手数料の印字があるにも拘らず、取引後残高には手数料が差し引かれていないため、顧客に対して実際には手数料が差し引かれていないことを、告知させることができる。尚、預金通帳20が挿入されていない場合には、ステップ#19はなくデータ転送後直ちにステップ#20へと移行する。

【0032】明細票25の印字が終了すると、「キャッシュカードを取れ」という指令が出され(ステップ#21)、その旨が表示画面2上に表示される。カード10をカード挿入口3から抜き取ると(ステップ#22)、「預金通帳を取れ」と言う指令が出され(ステップ#23)、その旨が表示画面2上に表示される。預金通帳20を通帳挿入口4から抜き取ると(ステップ#24)、「現金と明細票を取れ」と言う指令が出され(ステップ#25)、その旨が表示画面2上に表示される。顧客が、現金と明細票25を抜き取ると(ステップ#26)、一連の動作は終了し初期状態に戻る(ステップ#1の状態に戻る)。尚、預金通帳20を挿入していない場合には、ステップ#23とステップ#24はなく、直ちにステップ#22からステップ#25へと移行する。

【0033】【別実施例】以下、別実施例を列記する。本発明では、自動現金支払い装置として、出金モードのみならず、入金モードや振替モード等も利用できるATMで説明したが、出金モードのみが利用できる自動現金支払い装置(CD機)であってもよい。本発明では、利用手数料として非純正ATM使用手数料として説明しているが、時間外使用手数料(午後6時以降のATM使用や土曜日におけるATM使用に対する手数料)の場合でも、応用が可能である。

【0034】本発明では、所定の条件として所定期間内における出金回数としているが、これに限定されるものではない。例えば、顧客を複数のグループに分け特定の

グループに属するか否かを所定の条件としてもよい。グループ分けの方法としては、前述の純正顧客か非純正顧客かにより分ける方法の他、特定会員(例えば、商品名: レインボークラブ会員)であるか否かによって判別してもよい。又、特定地域に設置されたATMか否かによって判別してもよい。所定の条件としては、1つだけでなく複数の条件を設定するように構成してもよい。又、所定期間や所定出金回数の設定方法も種々変形が考えられる。

10 【0035】本発明における記憶装置40に記憶された顧客リストは固定されたものではなく、常時その内容を書き換えられるものである。例えば、預金口座を解約したような場合には、その顧客は顧客リストから消去されるように構成される。

【0036】本発明では、告知情報として利用手数料の額でもって説明しているが、これに限定されるものではない。図10に示すように、星マーク25eのような図形やその他の符号でもよい。更に、印字される種々の文字、数字等のうち特定の部分を色彩を変えて印字するものでもあってもよい。例えば、印字の基本色が黒色として、図10の出金金額の箇所25bを赤色で印字してもよい。

【0037】尚、特許請求の範囲の項に図面との対照を便利にするために符号を記すが、該記入により本発明は添付図面の構成に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る現金自動支払い機の外観

【図2】本発明に係る表示画面の表示例1

【図3】本発明に係る表示画面の表示例2

【図4】本発明に係る表示画面の表示例3

【図5】本発明に係るシステムの全体図

【図6】本発明に係るシステムの概略図1

【図7】本発明に係る顧客リスト

【図8】本発明に係るシステムの概略図2

【図9】本発明に係る動作フローチャート

【図10】本発明に係る明細票出力例

【符号の説明】

1 ATM

2 表示画面

3 カード挿入口

4 通帳挿入口

5 取だし部

10 明細票

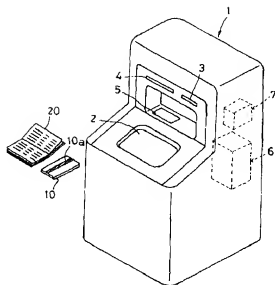
20 預金通帳

25 明細票

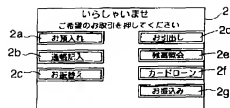
60 ホストコンピュータ

70 記憶装置

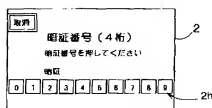
【図1】



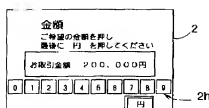
【図2】



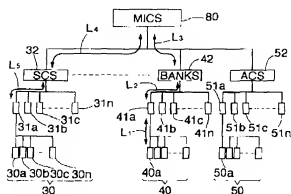
【図3】



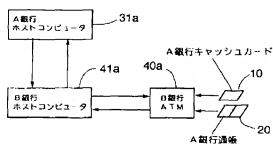
【図4】



【図5】



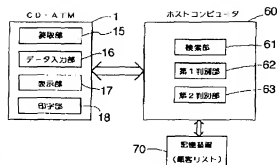
【図6】



【図7】

顧客情報						
番号	氏名	口座番号	銀行コード	支店コード	取引種別	取引回数
00	山田 太郎	123456	〇〇〇	△△	---	---
01	田中 一郎	789012	〇〇〇	△△	---	---
02	田中 一郎	234567	〇〇〇	△△	---	---
06	田中 一郎	456789	〇〇〇	△△	---	---

【図8】



【図10】

【図9】

